



生きることは食べること、「食」の大切さを訴える

内田美智子さん講演会

多久市は11月27日、福岡県行橋市にある内田産婦人科医院助産師の内田美智子さんを講師に招いて、「食と命・生を考える講演会・心のセミナー」を中央公民館で開きました。

内田さんは30年間で2600人の赤ちゃんを取り上げた現役の助産師さんですが、熊本食肉加工センターの坂本義喜さんの体験談をもとにした絵本『いのちをいただく』の著者でもあり、講演活動で食育の普及にも活躍する方です。

演題は『いのちをいただくってどんなこと』。内田さんは「食卓の豊かさが子どもたちを育て、家庭の食卓が子どもの身体と心を育てるのです。いのちをいただくとは、産んでもらっていのちをいただいて命をつなぐこと。また、食べ物をいただいたら感謝すること。“いただきます、ごちそうさまは、いのちのことは、心をこめて”ください。人に感謝すること、人の優しさに感動することができる、そして1人で生きていくことができる子どもを育てて送り出す子育てが大切です」と話しました。

ハンカチで涙を拭きながら講演を聴いた参加者は「子どもは育てたように育ちますの言葉に納得」と、子育ての大切さを改めて感じていました。

地域の安住と平穏を願い復元！

虎の銅像建立奉納除幕式

東多久町納所の両子神社で11月23日、新嘗祭に合わせて虎の銅像建立奉納除幕式が行われました。

虎の銅像は、明治11年の寅年生まれ9人が大正15年に両子神社に奉納していたものの、第二次世界大戦のときに供出。今では存在を知っている人は、ごくわずかとなっていました。これをもう一度復元し、地域の安住と平穏を願おうと、納所地区の大正15年・昭和13年・昭和25年の寅年生まれと以前建立した方の家族で協力して寄付金を集め、10月29日、供出されて65年目にして無事完成しました。

発起人の1人の平林春雄さんは「まず、どこに銅像の作成を依頼すればいいのかも分からず、1からの作業となったが地域のお寺などにも協力してもらい無事完成することができた」と感慨深げで、除幕式に参加した女性は「力強い虎ができた。地域のみんを見守ってくれることでしょう」と、親しみと期待を込めていました。



▲念願が叶い、喜びの表情の参加者たちと虎の銅像

### “火の用心”

#### 多久ロータリークラブが防火チラシを寄贈

多久ロータリークラブの淵上勝利会長ら4人が12月2日、市役所を訪れ、火災予防を呼びかけるチラシ8,000枚を横尾市長、多久消防署の百崎善夫署長、多久市消防団の陣内成和団長に手渡しました。「火の用心」と書かれたチラシは毎年この時期に寄贈。20年以上も続く活動です。淵上会長は「生命、財産を守る手助けになれば」と市民の安全を願いました。このチラシは、消防団を通じて市内全世帯に配布されます。



12/2

#### 年末年始特別警戒パトロール隊が出発式

年末年始の交通事故や犯罪を防ぎ、市民の安心安全に署員らが一丸となって取り締まる、年末年始特別警戒パトロール隊の出発式が、小城警察署多久幹部派出所で行われました。署員30人のほか、地域見守りコーディネーター4人などが式に参加。パトロール隊は前田勝久小城署長の訓示と横尾市長の激励を受けた後「地域住民の安心・安全確保のため、任務を完遂いたします」と決意表明をし、市内の警らに一斉に出動しました。



11/30